

# 第3回二戸市総合計画審議会 議事録（要旨）

開催日時：令和3年1月12日（火）午前10時30分～11時55分

会場：二戸ロイヤルパレス

## 【出席委員（敬称略）】

久慈 浩、長葭常紀、川上 隆、中田勇司、生内雄二、佐々木春彦、馬淵貴尋、一本木哲男、坂本敏美、戸来守和、古里政志、太田郁夫、青谷耕成、高田将洋、黒沢一史、小軽米健太、下斗米佑太

## 【説明のため出席した職員】

藤原淳市長、大沢治副市長、鳩岡矩雄教育長、田中館淳一総合政策部長、久慈清隆総務部長、小野一浩健康福祉部長、佐藤春彦産業振興部長、石村一洋建設整備部長、山本進浄法寺総合支所長、玉懸邦将教育部長、工藤博幸総合政策部副部長兼政策推進課長

## 【会議の概要】

◎開会に先立ち、欠席委員の報告

### 1. 開会

### 2. 市長あいさつ

皆さん、新年あけましておめでとうございます。今年もよろしく願いいたします。審議会は今回で3回目となりまして、本日は、計画案の諮問ということでまとめたところでございます。新しい部分としては、新型コロナウイルスの対応と、コロナの影響を受けた産業と市民生活の立ち直りというのが要になりますし、また、SDGsやソサエティ5.0といった、新しい社会生活に向けた取り組みが求められてくると思っております。コロナもついに隣町の方が感染しましたし、いつ広がってもおかしくない状況であります。これまで何回も申し上げてきたとおり、コロナに感染したときにどうするか、どう拡大を防ぐかが重要だと思っておりますので、全力を尽くしてまいりたいと思っております。さまざまな課題がある中で、何をもちょう二戸市を元気にしていくかということになります。皆さんから提案いただきました「人づくり」、あるいは、今の二戸のいいものを伸ばしながら新しい分野に広げていくことが必要だと思っております。本日、諮問を行います。皆さんからご意見等いただき、修正等対応しながら、良い計画を作っていきたいと思っております。本日も、よろしくお願いいたします。

### 3. 議事

○久慈会長

それでは、引き続き議事を進めてまいります。委員の皆さんのご協力をお願いします。

議事の（1）第2次二戸市総合計画後期基本計画（案）の諮問について。事務局より説明願います。

（事務局説明、市長諮問）

○久慈会長

ただいま、市長から総合計画後期基本計画の案について、諮問いただいた。計画案については、これまでの皆さんのご意見をふまえ、共通政策についても提示されている。今回の審議会でのご意見をふまえ、次回、答申を行うということなので、本日は、計画全体のことや、分野別の内容など、どのようなことでも結構ですので、率直なご意見を積極的にご発言いただきたい。

◇中田委員

私は27歳で青年会議所活動をはじめ、さまざまな取り組みに挑戦してきた。カーリングもその一つとして取り組んできて、苫米地選手というオリンピックを輩出できたし、今日の岩手日報には、我々の仲間「まべちがわ」チームが東北選手権で優勝したという記事が載っている。またカシオペアFMについても、この地域だから必要な情報インフラということで、取り組んできた。後期基本計画の中で、「民間力の活用」という項目があるが、これまでさまざまな取り組みを行ってきたという活力やノウハウを、活用してほしい。北海道では今年、稚内と北見にリンクができた。これは、地域振興やスポーツツーリズムを目的としている。本州では青森市と軽井沢にしかリンクがないので、二戸市にリンクができれば間違いなく人が来る。カーリング

ツーリズムとしてパッケージで売り込むことで、集客も見込めるのではないか。また、夏場もそうだが、冬場の交流として、酒や食と合わせた観光商品を検討していきたい。これを軸に、トップチームも集まれる場になるよう、オリンピックがソフト部分を担い、施設を活用した取り組みができればと考えている。まちには「顔」が必要で、今は漆だと思うが、レベルが高くなかなか気軽に買えないという点があり、ある意味ニッチだと思う。カーリングも同じとらえ方になると思うが、第2次総合計画が開始された5年前より普及しており、年々注目も浴びている。マイナーからメジャーに転換しつつあると思うが、この流れに合わせていかないと、今後さまざまな取り組みが後手後手になるという危機感がある。二戸市でも全日本選手権が開催される日がくるのではないか。シティセールスという視点で見ても、子どもたちの盛り上がりや県内外から愛好者が来るかもしれない。カーリングを二戸の「顔」として見てもらえたらと思う。そのためにも、我々も働きたいと思っている。

○久慈会長

このほか、特に若い委員の方から、この件に関してご意見、ご質問はないか。

◇小軽米委員

今、地域はコロナの影響でざわついている。我々はこれまで、イベント等でアプローチしてきた。私は「かぶれら」という団体でナイトシアターを開催したし、「きゃばまちらぼ」という団体では「きゃばまちマルシェ」を開催し、第2回目を年度内に開催できるよう企画。しかし、この企画会議の中でも、今だからこそできることがあるということ念頭に置いて進めている。今年の冬は寒いのもあり、安全性を見ながら開催したい。これまでの審議会の中では、中田委員は「何かとがっているものを」、生内委員は「企業のコロナ対策」、小保内委員は「教育を推進してほしい」などの発言が出されてきた。私は、テクノロジーの活用について発言してきた。配布された資料はよく整理されていると思うが、自分たちの発言がどこに活かされているのか、頭の中でイメージがわいてこない。「二戸市がこういうふうになっていく」というイメージなどにより、わかりやすく示していくことが大事ではないか。また、浄法寺地区では浄心園が移転するという話を聞いているが、例えばそこがまちづくりとマッチングするかとか、景観はどうなるかといったところまでをイメージできるとか、二戸市のビジョンがわかる形がいいのではないか。一步踏み込んだ意見として。

◇高田委員

政策2「移住定住」について。移住者とはどういう人を指すか。また、政策3「スポーツの振興」において、カーリングのとらえ方をお聞きしたい。

□総合政策部長

地方が元気になるためには関係人口の拡大として、都会にいる人がこのまちに魅力を感じて来てくれることが大事で、Uターン、Iターンいろいろ考えられる。まちの元気の魅力を発信して、ここに住みたいという人を呼び込むという取り組み。国の施策にも合わせながら、働く場所や魅力のあるまちを作っていくということ。カーリングもその一環として考えられる。しっかりとまちの顔を作りたいという中で、カーリングについては計画書の4ページに「カーリング場整備に係る調査を行い、スポーツを軸にした交流促進について検討を行った」と記載している。また「スポーツの振興」では「スポーツを通じ、市内外の若者を中心とした交流の促進や、まち（エリア）の活性化を図るため、カーリング場整備調査に基づき関係団体との検討を進める」と記載している。総合計画はすべてを網羅する計画で、その中にはいろいろな意味を持って進めることとしているので、ご理解いただきたい。

◇高田委員

移住定住の推進ならば、Uターンに力を入れていく必要があると思う。一度出ていくのを止めるのは難しいが、一度出ていろいろな経験をして帰ってくると、それが力になる。地元に残ることもいいと思うが、経験を積み、能力を身に付けて帰ってくるのもいいことだと思う。Uターン支援の充実をお願いしたい。また、カーリングについては、観光や産業、移住定住、健康や教育、コミュニティなどさまざまなところに関わってくると示し、「カーリングをやっている人のためだけか」と言われなくすることが大事。私の家族にも、カーリング場などつくりとせず、リハビリ施設をつくったらどうか、という意見が届いた。私たちがカーリングへの理解促進を図っていきたいと思うので、市も、地域の理解を促してほしい。

○久慈会長

それでは、この件に関してはここまでとする。次に(2)、第2期二戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)について。事務局より、説明願います。

(事務局説明)

◇生内委員

素晴らしい計画になると思うし、これらがきちんと今後反映され、実行できたら、より良い市に発展していくと思う。しかし、これからもイレギュラーがありうるということをふまえ、行政は総合計画にしがみつかないよう、その時の優先順位を考えて進めてほしい。

□総合政策部長

総合計画は最上位計画であり、これに基づき各種計画が作られている。総合計画では大きな目標を立て、そのもとに、実際の事業内容であるアクションプラン、予算を獲得するための実施計画というものがつながってくる。当然、財源がなければいけないので、国の交付金を獲得するために総合戦略を策定する。これまで総合戦略では、なにやーとや滴生舎の改修などを行ってきており、カーリングの調査事業も行った。予算が厳しくなる中で優先順位をつけなければならないので、総合計画は大きな範囲で作り、その中で臨機応変に対応するとともに、コロナ対策などの新しい問題にも対応するなど、いろいろなことがある。これらを整理して、推進するために努力するというのを、ご理解いただきたい。

◇長葎委員

公共交通網を生かし、広域的視点を持って推進してほしい。先日、青森の県立美術館に行ったが、美術館と三内丸山遺跡にも行けるバスがあった。二戸は交通網の結節点であるから、さまざまなことができると思う。「何をやったら市民が喜ぶか」という考えを持ち、実施計画やアクションプランもなるべく早く市民に示して行ってほしい。また、計画案の中で、福祉のページに「地域まるごと」という表現があった。高齢者だけでなく、さまざまな方を支援していくという意味で、良い言葉だと思う。まさに、岩手を引っ張っていく立場になるのではないか。他の政策等においても、このように知恵を絞って進めてほしい。

◇川上委員

共通政策に「人づくり」と「公民連携」を掲げたということで、大きな特色になるのではないかな。一般的にも自治体まちづくりとか、地域…などが提唱されている中で、住民主体にしていく… 公民連携には、公設民営や指定管理など、いろいろな手法があるが、それぞれ体質が違う。共通理解や認識が大事で、これらの手法を今後どう展開していくかということだと思うが、オープンなプラットフォーム、フューチャーセンターのような公民連携のベースになる場が必要ではないか。また、カーリング場についても前期基本計画と同じような表記になっているのではないかな。そうすると、高田委員のお話のように「一部の人がばかりで…」という印象を持たれかねないと思うが、それも当然だと思う。私も、体験するまでは関心がなかった。今でも競技人口が3,000人と言われ、市の調査においても、カーリングをビジネス化できるには、知識と人脈を持つ団体が関わらないと成り立たないとあった。ただ、そのニッチな部分にスポーツツーリズムや、交流人口拡大のチャンスがあると思った。ただし、中田委員の発言の内容だけでは、お客さんは来ない。地元で組織を作って戦略を立てるなどして、施設整備と一緒に動いていかなければならない。

◇一本木委員

立派な計画になったと思うし、実践できればいいと思っている。市全体の産業や経済力向上の一方、みんながつながる仕組みを作り、その中で老人クラブも入れていただきたい。その仕組みの中で意見をいただき、アクションプランに役立てていただくというのはどうか。立派な計画を、市民に受け止めていただくためのPRが大事だと思う。ここにいない大部分の方々に、どう周知していくか。

○久慈会長

皆さんからさまざまなご意見をいただきました。ここで、行政のほうから何かあれば。

□総合政策部長

地域まるごと包括ケアを通じた地域連携についてだが、行政が縦割りで各事業を行っているが、地域では同じ人がさまざまな役割を担っていることから、地域での見守り体制を公と民でしっかりとつくることとしている。老人クラブにも事業を担っていただいているが、そのような連携を進めていくことである。限られた予算をどう使うか、行政が民間と一緒にあってさまざまな取り組みを進めていかなければならないという考え方のもと、人づくりと公民連携を、共通施策に持ってきたところ。カダルテラスについても、市が出資しながら民間が建設し運営するという仕組みであり、いろいろな方法がある。このようにいろいろな場面で話し合いながら進める必要があるため、これまで連携協定の締結などをしながら各事業を行ってきたところ。

そのような中、若者の活躍も多くみられるようになり、企業間の連携によるアイデアも生まれ、一緒に進める仕組みができてきた。カーリングについても、さまざまな意味を持った内容としているし、地域連携や自治体連携なども進めていくこととしているので、今後アクションプランや実施計画は早期に示していきたい。

○久慈会長

行政側からの回答をいただいた。市長からお話することはないか。

□市長

改めて、このメンバーに集まっていたいただいて良かったと思う。各所で活躍している方からのご意見であり、非常に良かったと思っている。前期基本計画においてやればやるほどぶつかったのが、人づくりと公民連携。3つの重点地区や駅前など、どうやって進めようかというのが、今後の柱になる。基本計画には702のアクションプラン各事業がぶら下がっていて、それらすべてがうまくいけば、本当に良くなる。「ものにするにはどうすれば良いか」を考え、重点的に進めたい。また国土強靱化地域計画は、国の財政支援を受け、安全安心なまちづくりに向けた宿題となっていた雨水排水路などの改修を行い、住みやすい環境づくりに取り組んできた。また、子育てについても若いお母さん方のお話をふまえ、全部一気ににはできないので、負担いただく部分をお願いするといった進め方をしているし、定住化については、高田委員のお話にもあったが、私はUターンが大事だと思っており、そのためにも中学生や高校生がふるさとの良さを伝える授業等を行い、いつかふるさに帰ってきてほしい、という願いを持っている。また、とがった部分を磨いて特色を出すということで、先般、長島まどかさんが新聞のインタビューに答えていたが、「ここの地に骨を埋めるつもりだ」というたくましい言葉に、これまでの施策が間違いではないと感じた。それから、この計画を知っている人は知っているというのはもちろんであるので、普段からもっと周知を図り、みんなでまちづくりをできればと思っている。カーリングについては調査事業の中で建設費・運営費・競技人口の3つの課題をある程度クリアできる必要があると思っているが、いつでもチャンスが来たら実施していくという意気込みは持っているところ。建物を作ったら活用していくというのが当然なので、これからもそのような考え方を進めていきたい。

○久慈会長

ありがとうございました。それでは、本日の議事を終了します。ご協力ありがとうございました。

## 5. 閉会